

紀の川市 市民ワークショップ(2017.09.23開催)結果まとめ

テーブル	施策	施策番号	基本施策	各ステークホルダーの役割・できること						備考欄	
				市民	シール数	地域・自治区	シール数	団体	シール数		事業者
A	防災・防犯	1-1-1	地域防災力の向上	・自主防災の訓練を今年行う。		・訓練や講演会を実施する。		・学校の避難訓練は抜き打ちにする。	1	・自営消防組の設立	
				・近所に住んでいる人の名前を覚える。		・主に洪水や地震に対応した避難訓練を行う。		・貴志川福祉防災ボランティア会(防災士として、東北大地震前に立ち上げる)			
				・危険だと思った、感じたことはできる限り報告する。		・どこにどういふ弱者の方が住んでいるのか共有する。	1	・ルール違反は厳しくする。			
				・回覧板が回るぐらいの地域の資源を知る。		・避難場所の耐震工事の徹底		・避難中の助け合いができるようコミュニケーションをとっておく			
				・防災フォーラムや家族会議など積極的に参加する。		・地域のコミュニティを深め、お互いの理解を深める		・防災ボランティア団体の設置。	1		
				・マナーが悪いのは良くない。				・年1回の防災備品の入れ替えイベントを行う			
				・公助・共助・自助では	1						
		1-1-2	効率的で効果的な消防体制の整備	・女性消防団員の増加	1	・避難場所の安全確認をする。		・自前で消防を行う。		・非電化の設備。非ガソリン	
		・夜間の出入りに注意し、行動する。			・防災教育、ハザードマップをつくる。	1					
		・消防団員が現場に到着したときに、速やかに仕事ができるよう可能な範囲で対処しておく。		1	・連絡網をつくる。						
					・改修・改築の際の補助金						
						・ハザードマップなど定期的に配布する。					
		1-1-3	災害に強いまちの形成	・避難訓練には必ず参加する。		・小さな公ではない避難場所づくり		・住宅耐震化への補助金		・災害発生時、積極的に避難スペースを提供する。	
		・2～3日分の水・食事・トイレを準備しておく。			・避難場所には、1週間分の水・食事・トイレを準備しておく。				・耐震構造のある建物を地域に多く建てる。		
					・耐震については、訪問などで徹底すべきではないか。				・防災グッズなどを各自治区などに常備するよう居力する。		
		1-1-4	防犯・交通安全対策の推進	・自転車保険のへ加入する。		・監視カメラを設置する。		・高速道路の逆走対策をする。			
・防犯カメラ、監視カメラ設置を積極的にお願いしていく		・障がい者(自閉症者)への理解。			・交通安全講座やテレビでやっているような詐欺の対策講座を未成年だけでなく、社会人や家庭の人にも参加してもらおう。						
		・街灯がもっと必要だと思う。		1	・自転車保険の義務付け						
		・不審者などに対して夜間の街灯を増やしたり、見回りを行う。									
		・紀の川市更生保護女性会、貴志川分会									
		・防犯の呼びかけを積極的に行う。									
B	健康・医療・福祉	1-2-1	健康づくりと疾病予防	・喫煙場所の選択をする。	1	・タバコについて喫煙場所を確保する。		・日赤奉仕団員の減少がみられるので、新会員の促進。		・ドクターヘリ	
				・毎日歩くなど体を動かす習慣をつくる。		・毎朝365日地域コミュニティもかねてラジオ体操を実施する。	2	・食育のまち、紀の川市。食の大切さを伝えるために公共の施設を利用する。		・支援活動の充実	
				・健診を進んで受ける。		・てくてく体操、ストレッチ教室等の教室が増えてきた。	1	・食中毒など回避できるような病原菌への対策をしっかりする。		・病院内の医師を充実させる。	
				・地域で行っている行事等にはなるべく参加して頭の体操や体を動かす等気を付ける。		・分煙。喫煙をしないという教育を強化する。		・てくてく体操の啓発。治療より予防。		・障がい者の方やその家族の相談を聞くための事業者を増やす。	
				・年1回のがん検診を受ける。		・運動場所の充実		・健康維持のため、てくてく体操を行う。			
				・まずは各自でできることをする。							
				・高齢者の健康づくりのサークルはいくつかあるが、まだまだ参加者が少ない。→自治会、老人会を通して参加のPRをしてはどうか							
		1-2-2	地域医療の充実	・AEDの設置台数を増やす。		・「高齢者いきいきサロン」を地域でやっていて、一人暮らしの方に声かけできる場所を作っている。そういう場所が各地域に必要なと思う。		・フレイルサポーターをしている。地域に出かけて虚弱(フレイル)チェックを実施しているが、予防が大事である。		・ICUや救命救急を設置する。より速い医療の提供を目指す。	
					・小学校などに高齢者を呼び、昔の話や昔の遊びなどを教えてもらう。高齢者の得意分野を披露できる場づくり。		・介護予防にリハビリテーションで行われる体操などをより多くの人に知ってもらい参加してもらう。	1	・リハビリ施設と同時にジムをつくる。		
					・バリアフリーやユニバーサルデザインを取り入れる。	1					
					・運動を促すための企画をたてる。						
		・病氣予防において、人間ドッグなどに行きやすくなるように呼びかけをしたり大切さを知ってもらう。	1								
1-3-1	地域福祉のしくみづくりと推進						・地域の方が買い物に利用するショッピングセンターのなかに「健康相談コーナー」を設置する。	1			

紀の川市 市民ワークショップ(2017.09.23開催)結果まとめ

テ-ブル	施策	施策番号	基本施策	各ステークホルダーの役割・できること						備考欄		
				市民	シ-ル数	地域・自治区	シ-ル数	団体	シ-ル数		事業者	シ-ル数
		1-3-2	高齢者福祉の充実	・障がい者や高齢者が困っているのであれば手助けする。		・点字ブロックなど、障がい者や高齢者への負担を少なくする。(=バリアフリー)					・病院などの老人向け施設が増え、高齢者にとってありがたい人が入れない人が多い。	
				・高齢者向けの活動できる場所を設置する。		・居住、食料など生活空間を都市づくりを行って、健康の全国モデルをつくる。				・疾病予防に関して、健康増進のための魅力的な企画。		
						・少子高齢化についていろいろ対策をする。				・福祉施設の増大と質の向上。		
						・高齢者や障がい者の方にも働く喜びを感じることができると提供できる。	1			・高齢者がやりがいや生きがいを持てる場。生きがいあつてこそ。		
		1-3-3	障害者の自立支援	・まずは障がい者をもつ方への理解が必要である。		・リハビリ施設を増やす。					・障がい者が暮らしやすい施設を運営する。	
				・障がい者に対するには、ノーマライゼーションの視点の共有が大切である。		・コスモスなどの施設が地域との交流を深める。						
C	子育て環境・保育サービス	2-1-1	子育て環境・体制の整備、支援	・子育てに悩んでいる方がいたら声掛けし支えていく。		・責任などをいったんおいて、子どもを家庭以外で預けられる家があればとても助かる方多いと思う。民泊などで気軽に託児できる施設があればよい。	1	・団体が連携をはかり、種々の団体支援の分析をする。		・子どもにその地域のフルーツを知ってもらおう。		
				・地域ぐるみの子育てをする。(親だけに負担をかけない)		・子育てで家庭の支援を給金によって変えるのであれば、その線引きを認識できるように明確にする。		・学校の統廃合をすすめる中、学童保育等の子育て施設への利用を行う。(バス送迎が必要)		・出産、子育てをするお金がないという人が少なくないので、経済的にも制度的にも支えられるように給料を増やす。育児休暇を認める。		
				・高校生に小学生の登下校時間の見守り協力の時間をつくってもらおう。(健全育成にもつながる)		・無償化も大切である。人的サービスの充実。子供と高齢者が一同一に介して、勉強や遊びを楽しむスペースの確保。例えば、公民館を利用する。(※有償ボランティア)		・空き家、空き施設を利用し、子育て施設を増やす。		・平等と人権尊重		
				・不妊症に関して、気軽に話せる場が紀の川市にあると知れば、紀の川市に通う方が増える。		・託児など事業レベルでなく個人的なレベルでちょっと見てもらえるネットワーク。		・大学生の年代の協力(大学との連携)		・子育てに関するボランティアグループの育成を行う。		
				・親しくなれば互いの子育ての悩みが分かり、対処できる。	1	・幅広い年齢の子どもたちが一緒に行動できることを考える						
				・子育てからはなれたおじいちゃんやおばあちゃんによる学童		・子育てをするには、地域の協力が必要で自治会に加入する人が減少しており、自治会加入を促進し、地域で子どもの見送りを強化する。						
				・子育てでなど、わからない人がいれば相談できる人がいれば安心		・ひとり親家庭の支援を給付金によって変えるのであれば、その線引きを認識できるようにしっかりする						
						・となりの大人が出掛ける時に子供を快く預かる						
						・地域の人がみんなで子育てをする						
				・子育ては親と子のつながりを重視する。難しいが、しっかり心の交流(ぬくもり、愛、その人に寄り添っていく)		・子どもと老人との遊びや関わり	1					
C	子育て環境・保育サービス	2-1-2	子育て環境・体制の整備、支援	・子育てに悩んでいる方がいたら声掛けし支えていく。		・責任などをいったんおいて、子どもを家庭以外で預けられる家があればとても助かる方多いと思う。民泊感覚で気軽に託児できる施設があればよい。	1	・団体が連携をはかり、種々の団体支援の分析をする。		・子どもにその地域のフルーツを知ってもらおう。		
				・すでにやっているのですが、紀の川市は子育て支援が充実しているのに知られておらず、言いふらしています。同じ母の立場でもっと広めたら良いと思います。		・寺子屋塾のように地域のいろんな力や技術のある人が学びの場をつくる。	1	安心して遊んだり、集える公園の整備				
				・親などが忙しい時に遊んであげられたら良い		・子育ての環境や子育てのしづらさがある人に対する支援(障害がある母・子などの寄り添いの支援体制)						
				・無償化も大切だが、人的サービスの充実が必要(学校支援員等)。高齢者が子供たちの面倒を見る。例、共働きのお家の子どもが学校に残る場合、地域の高齢者が		・放課後、お年寄りや小学生が同じ場所で過ごせる寺子屋のような場所が作れば						
						・地域のおばちゃんによる子育て相談教室の実施(集会所などで)						
		2-1-2	保育サービスの充実	・困っている子どもたちに声をかける。また、悪いことをしている子には意見する。		・私立保育園誘致による受入増加。		・保育所は各家庭から近くにあるほうがよい。				
				・地域の子供たちが楽しく遊べるようなものを企画し、実行できれば、みんなが楽しく、親しみも生まれると思う		・JA等農業団体が子どもが増える対策として農業就労で生計が成り立つ農業経営を指導する。		・ワークシェアリングをして保育士を増やし、保育士の負担を軽くする。	1			
				・小さい子供が歩いているときは見守ってあげる		・孤食やひとりで過ごす子どもが多いよう、気軽に集まれる居場所		・母子が安心して働きやすい保育サービス。				
				・子育ては親と子の心のつながりが重要。難しいがしっかり心の交流(ぬくもり、愛、その人に寄り添っていく)		・保育所などで送迎バスなどをやってもらいたい。それならば、仕事にできる親などが便利。		・0歳児からの子どもの長期保育(土日祝日)				
				・託児など事業レベルではなく、個人的なちょっと見てもらえるようなネットワーク								
		・団地、住宅地で子供の数を把握し、見守れるようにする										
		・子どもと老人のかかわり	1									
		・安全など地域での見守り				・保育所側が子どもの親を安心させることのできる施設にする。(体罰などをなくす)						

紀の川市 市民ワークショップ(2017.09.23開催)結果まとめ

テーブル	施策	施策番号	基本施策	各ステークホルダーの役割・できること						備考欄	
				市民	シール数	地域・自治体	シール数	団体	シール数		事業者
		2-1-3	地域の子供の健全育成の推進	・自分の子どもだけではなく地域の子にも愛情を持って接する		子ども会など、子ども主体で活動できる場				・果物の収穫だけでなく、手入れや作業を子どもたちに学ぶ場をつくることによって、フルーツのまち紀の川市で「果物のことを何でも知っている」という子どもを増やす。	
				・地域住民の意識改革「自分ち」だけでなく「地域コミュニティ」による子育て		・市民として、子どもに対し、まちの美化を進めること。例えば、空き缶のポイ捨てをしないなど。子どもの成長を見守る。		・地域の子供たちがその地域のいいところを言えるような環境を作る(公園など)		・子育て、生活がしやすい団地・ショッピングセンターの建設。	1
				・一市民として皆が子どもに町の美化を進めること(例えば、空き缶のポイ捨てなど) ・子どもの健全な成長を見守る		・子育てについて行政に頼るだけでなく、地域が一番大切と思う。		・フルーツ・ツーリズムで地域の子供たちが地域の果物の成長を学べる場をつくる。			
						・青少年を見守り育てるといよりも、青少年とともにやっていけるような政策をめざす		・総合型地域SCの各地区(できれば中学校区)への設置による地域住民の運営による青少年育成			
D	学校・家庭・地域教育	2-2-1	学校教育環境の充実	・通学路を知りたい		・道路の整備を行う。		・空き家の撤去		・学校設備の耐震強化。	
				・通学路の地域での見回り		・登下校時の道路は安全か		・積極的に活動に参加する。		・速やかに点検し、改善点を正す。	
				・通学時間帯での見守り		・危険物の点検、発見を行う。		・予算化する。		・「スクールゾーン」を道路に表示させる。	
				・勉強したくなるような環境づくり	1	・近所づきあいを増やし、「知らない人」を減らして行くことで通学環境を整える。		・学校のスクールカウンセラーの存在への認識を向上させる。		・学校環境。	
				・読書習慣		・危険な場所の点検、交通量の点検を行う。		・学生のメンタルケアを考える。		・教育者はしっかり生徒に目が届いているか	
				・生育歴はどうか		・街灯、歩道の整備を行う。	1	・教育相談院・スクールカウンセラーをもっと身近なものにしていく。		・給食室を作って学校で給食を作る。	2
				・家庭環境		・高校などの道のりの警備などを地域の人に手伝ってもらう。		・先生と生徒の交流。		・授業方法を変える。	
				・家庭の教育力		・もっと学校と地域で交流できるイベントを増やす。		・小中学生に給食アンケート等を取り、その上で人気や栄養のある給食を作り、笑顔のあふれる食卓を作るようにする。		・家族と連携していじめや不登校の問題の早期解決を目指す。	
				安心して子育てができるか		・自治区がイベント提案をして色々なところに呼びかける。				・堅苦しくない教科書を授業で持ちいる。	
										・学校の耐震工事、改築を行う。	1
										・文化や伝統、職業体験を充実させる。	1
										・子供が聞いて読んで楽しんで学べる教科書を作る。	
				E	生涯学習・生涯スポーツ	2-3-1	学び・結び・育む生涯学習の推進	・紀の川市でアートイベントを企画する。「アートで地域おこし」		・地元の野菜や果物を使い新しい発見を求める料理教室。	
・図書館に本を寄付する。個人蔵書を受け入れる窓口を作る。	1	・元気塾、出前講座等もっと増やして皆参加出来る様にする。						・図書館不足、移動図書館。		・市役所の各窓口図書スペース。	
このワークショップのような様々な人たちが、意見を交わし合える場の創出と参加。		・子育て世代の人たちが参加しやすい学びの場を創出する。						・障害者の生涯学習の場づくり。		・サイクル、ウォーキングステーションづくり	2
		・公民館活動の推進とスポーツを行う市民の増加を兼ねて、公民館などにスポーツができる公共施設を増やしていく。(方針①)									
		・アーティスト特区づくり。									
		・方針①(公民館活動の推進とスポーツを行う市民の増加を兼ねて、公民館などにスポーツができる公共施設を増やしていく)と方針②(何十年も続けられる、地域にちなんだ新しい「祭り」を作る)により、文化芸術活動の場には?									
		・アーティスト(音楽、芸術等)の住居誘致をする。									
		・地域にちなんだ何十年も続けられる新しい「祭り」を作る。(方針②)									
		・農家の人が学べる場を作る。									
		・料理などを教えあう共に作ることもよいと思う。	1								
		2-3-2	スポーツの振興と環境の充実	・同じ興味のある人と、一緒に仲良くする。		・スポーツイベントを新しく追加する。		・公的、私的に、趣味サークルマップを作る。		・スポーツができる広々とした場所の設置。	
				・スポーツ活動を振興するための指導者の育成。		・各種サークルやイベント等を増やす。		・野球やサッカー等、メジャーなスポーツのプロチームを招いてのイベントの開催。	2	・有料のジム等が増えている。人気もある様なので行政がやってくれる内容も考えなおせないかな?	
				・てくてく体操の場をもっと増やす。		・参加するハードルの低いスポーツ同好会の創出。		・市で行っているスポーツ教室の確認。		・紀美野町のような本格的なパークゴルフ場を作って欲しい。	

紀の川市 市民ワークショップ(2017.09.23開催)結果まとめ

テーブル	施策	施策番号	基本施策	各ステークホルダーの役割・できること						備考欄	
				市民	シール数	地域・自治体	シール数	団体	シール数		事業者
						・バスピン発祥の地なので子供から高齢者までみんなが楽しめるバスピンをもっと広める。(大会等)		・いろいろな年齢が集まるスポーツクラブ。		・スポーツ施設の無料開放日を設けて広める活動。	
						・年齢等に関係なく出来るスポーツ案内		・那賀に住んでいます。スポーツ大会等は桃山までいかなければならないので、交通アクセスが悪い。		・パークゴルフ場の活用、定期的に大会などを行う。	
						・各種目別スポーツイベントを実施し、広報する。		障がい者スポーツの拠点づくり			
F	農業振興	3-1-1	地域の特性を生かした農業振興	・知り合いなどに農業の良さを教える。		・農業者同士のお互いの交流。		・学校教育の一つとして農業をやってみる。	1	・販売するときに自分が作ったものをアピールする。	
				・家庭菜園で農業のまちをアピール。		・将来的に農業をするメリットを伝えるフォーラムを開く。		・泥棒対策		・農業を通して食文化教育を行う。	
				・安易に住宅地にするのではなく、耕地面積の減少に歯止めをかけてほしい。		・「あら川の桃」みたく、キウイ、はっさく、イチゴ、などもブランドを増やす。		・新規参加者が部会に入りやすくし、部会内で農業生産のノウハウを共有する。		・農業後継者について行政が相談にのって欲しい。	
				・フルーツのオーナー園を多くする。		・全国の大学生を受け入れ、農業体験をしてみよう。		・果物の成長過程を学べる体験をやり、子供たちの果物への理解を深める。		・ふるさと納税返礼品によるフルーツ王国のPRしてはどうか。	
				・紀の川市の地域の特性、農作物について知る。		・農業振興に対する理解を深めるために働きかけを行う。		・桃畑をドローンで空撮し、ライブ配信することで、紀の川の桃を全世界にPRする。	3	・JA紀の里による果樹(桃、ハチ、イチジク、みかん、柿…)のブランド化。糖度の統一基準を設ける。	
				・子育ての際に農業の魅力を伝え、後継者を育てる。				・市外、県外のイベントにもっと積極的に参加し、PRする。		・品種改良に力を入れ新しい品種を売り込む。	
								・鳥獣被害の実態を知る広報を行う。		・生産者と販売者の距離を縮め(契約販売など)、生産者の利益を多くして数値化することで農業者の増加を	
								・紀の川市でとれる野菜や果物を使った新しい地酒を作り全国に販売する。	1	・農業者をするにあたって優遇政策を出す。	
								・耕されず「使われていない農地を安く買い取り、農業をしたい人に安く売る。		・企業に協力することで、「農業」を新たなビジネス(アメリカ的な)にできるようにする。	1
								・農業体験施設の充実。		・農学部が欲しい。	1
								・赤外線カメラ搭載のドローンを夜間に飛ばし、害獣の導線を明確にし、対策を講じる。		ブランド化のための統一した基準を作成する。	1
								・食肉処理施設を設ける(京阪神に近くてジビエの材料がこんなにあるのに)			
		3-1-2	均衡の取れた農村や農地の整備	・アミやしかけをしたり犬を飼って、農地が荒らされないようにする。		・学校への農業教育。		・害虫対策。(カミキリムシによるバラ科への被害が深刻)		・農地の区画整備をきっちりして、今後起こりうるであろう耕作放棄地対策を講じる。	
				・害獣対策。		・新たな農業振興団体を構築する。	1				
				・ヤギを飼う。	2						
G	産業振興・雇用・就労	3-1-3	商工業の振興と地域資源を生かした産業振興	・行政依存を少なくし、自主独立(ケガをいとわない)、新しいことに挑む!		・区の工事や修繕は地元業者に委任する。		・各商業団体で、企画コンテストを行い、優秀なものを市に提案し実現させる。	1	・紀の川市の名産である、フルーツをもっと前向きに出す。	
				・ホスピタリティと語学に挑む(来るべき外国人(観光客)対策)。		・祭りの参加賞や賞品は地元業者で負担する。		・旅行会社とタイアップして他の地域にないようなイベントを実施したり、コースを作る。		・大規模農業を組織化する。	
				・他府県に行った場合、おらが紀の川市自慢を行う。		・空き家や休耕地の活用。	2	・商工青年部を活性化させる。		・先行事例(成功例)をマネしない事業展開を。	
				・観光マップ ・案内人 ・もって地域の良さをアピールする	1	・インバウンド	1	・個人や小規模業者は全ての工程を自分ではできないので、その一部を集約して代行する(めっけもん)。		・農産物を加工して、名産品(ブランド品)を作る	
				・市民として自地域の活性化のために、一人一人が近くのお店を利用したりする。		・若者、障害者などが働きやすい環境、職場を作る。	1	・地域の資源を活かした観光名所(果物狩り、パラグライダー)をアピールする。	2	・店舗を集合させ、一か所で何でも買えるようにする。	
				・他府県へ行った場合、紀の川市の自慢を行う。				・観光の際に素通りされない市内のネットワークを作る。		・特産物を使った色々な食べ物を開発する。	
								・ゲストハウス等の宿泊をする場が必要である。	2	・地域でクラウドファンディングを行う。	
								・大型ショッピングモールは何でも揃って便利であるが、できるだけ地元の商店で買う。			
								・イオンモール出店。		3	
								・個別の売り上げ改善だけではなく、商店街全体の発展を考える。(おかげ横丁、倉敷美観地区)			
								・他府県の成功例をマネしない紀の川オリジナルの施策の実践(全国で1つしかやってない)。			
								・世界的に有名な青洲をもっと宣伝して商業につなげる。			
		3-2-1	就労支援の充実と雇用創出の振興	・小さなエリアにおける寄合(コミュニティの強化)への支援を行う。				・地域の資源を活かし、活性できるような仕事の間を作る。		・もって働く人の考え方を聞いてもらえる働きやすい環境を作る。	
				・給与に「依存することなく、ワークシェアリングをして多くの人が働けるようにする。(特に公共団体)							
				・雇用してもらえる人間になる努力をする。							
H	観光・交流	3-3-1	観光資源を発掘・活用した観光振興	・どういった観光地があるかを知る。		・観光の魅力のある地域資源が必要である。		・市民に「紀の川遺産」と呼べる魅力的な方おられるので、たくさんのお会いの方たちを広く伝えたい。		・ふるふるトウトウを貴志駅からJR和歌山線のどこかの駅まで走らせる。	6

紀の川市 市民ワークショップ(2017.09.23開催)結果まとめ

テ-ブル	施策	施策番号	基本施策	各ステークホルダーの役割・できること						備考欄		
				市民	シ-ル数	地域・自治区	シ-ル数	団体	シ-ル数		事業者	シ-ル数
				・まず自分たちで調べる。		・観光名所の発掘をし、マップ(独自のもの)を作成する。	1	・フルーツ・ツーリズムで活動していますが、PR不足なのでフェイスブックなどでもっとPRできれば。	1	・増加傾向にあるサイクリストに対応する設備が必要。	1	
				・市の広報をよく見る。		・農業体験や農業体験ができる宿を作る。	3	・PR誌を発行する。		・紀の川市の特産フルーツを使用した若者向けのお店を作る。		
				・情報収集を行う。						・おもてなしできる市民が必要。		
				・地産地消を今よりも充実させる。	1					・他府県の成功事例をまねせず、紀の川市オリジナルイベントを行う。		
										・事業者の自主独立(ケガをいとわない) ・新しい事業に取り組みにチャレンジ		
										・観光地で働く人々に笑顔を。 ・一部ガイド係の人たちが偉そうにしていることがある。		
										・ホテルサミットに関連して、ホテル以外で交換できるものはないか。		
										・世界遺産を訪れた外国の方々から紀の川市まで来てもらい、農業体験してもらおう。		
		3-3-2	歴史資産などの保全・活用	・住んでいるかのように、泊りながら時間を楽しめる場所を作る。		・文化財、観光地への道路の整備。 ・どの町にどのような文化財があるか把握するための見学会、勉強会を実施する。	1	・粉河寺とその前のとんまか通りの活性化。 ・文化財保護、建物の老朽化等へ助成金を出す ・外国人観光客に対して、笑顔と言語でお迎えする。		・文化財の広報やイベント等を行う。		
		3-3-3	国際交流と国内交流	・孫世代の国際交流。 ・国際交流受け入れに関し、受け入れ先や受け入れ助成金などをPRする。		・facebookなどのSNSで国際交流を発信する。 ・どこの国とどのように交流しているかをもっと発信していく。 ・Youtubeも含め、SNSを今よりもさらに活用し、若者たちの目に触れる機会を増やす。		・インターネット等で多くの交流を図る。		・国際交流先への助成を行えば、多数集まるのではないかと。 ・桃の生産量1~5位の自治体かJAが集まって桃サミットを開催する。 ・2025年の大阪万博をターゲットに外国からのお客様をお迎えする体制を早急に整備すべき。 ・ホテルサミットを今後も長く続けてほしい。		
		3-3-4	市政情報の発信とシティプロモーションの推進	・facebookをはじめとするSNSで紀の川市のいいところを市外県外に発信する。 ・地域観光マップに乗っている観光名所を実際に歩いて自分たちでPRする。		・粉河寺など由緒ある寺院が多いのでPRする。 ・一本化された観光マップを作成し、公共施設やお店などにおいてもらう。 ・「紀の川市観光マップ」のようなものを作成して、市役所などの公共施設や地域のお店に置いてもらう( unnecessaryなものを減らすことも大事、一種で足りるようなものを)。		・産業、農業等、地域連携を図る。 ・アンテナショップ紀州館に桃源郷の空撮動画のライブ配信を行う。		・サイクリングや華岡青洲を全面に出し、「ヘルシーのまち紀の川市」をPRする。 ・道の駅になった青洲の里をもっと利用していくべき。 ・パラグライダーやドローンで紀の川のいい所や全体像を空撮して、市役所や待合室で流す。	1	
								・フルーツツーリズムの取り組みの認知度を上げる。				
1	都市基盤整備・公共交通	4-1-1	土地の有効利用とまちの景観保全	・ポイ捨てや歩きタバコをしないなど周りから見て気持ちのいい紀の川市にする。 ・自分の家でも他人から見えるのできれいにする。 ・草刈りを地域の行事にして、地域の景観を維持する。 ・地域のコミュニティーを増やし、お互いの持っている土地を理解し、活用していく。 ・地域のシンボルを住民が理解し、それを中心とした行事を行う。	1	・各団地、住宅街でつながりを持ち、空き家があるかどうかを認識し、市役所とが対応できるようにしておく。		・空き家を壊してその場所を住民が使える場所にする。	1	・フルーツの町として多くの方々に知ってもらうため、その農地の作物の名称等の看板を立ててはどうか。 ・空き家の民泊利用。 ・定住できる環境は景観維持につながる(働く場、文化的な施設など)	1	
		4-1-2	住みよい都市環境の整備	・空き家を手放す。 ・民泊の運営ノウハウの共有。	1	・道路のごみを掃除する。 ・子供親子が安心して遊べる公園や空間を整備する。	2	・美観地区などの設定に協力する。 ・空き家バンクで販売(古民家風リフォーム)	1	・紀の川市「独自ルール」を設け、それに従い、規約されている内容に従い啓発を行う(ただし、規約を緩和することも必要である)。 ・老朽住宅の建替と廃屋(空き家)の取り壊し、土地利用の促進する。	1	
								・農地での耕作変更は景観をそこねるので、新規就農しやすい環境を作り、農家以外の人も農地を購入できる環境を作る。 ・端に位置するご自治体への集積所へのインターネットの充実。				

紀の川市 市民ワークショップ(2017.09.23開催)結果まとめ

テ-ブル	施策	施策番号	基本施策	各ステークホルダーの役割・できること						備考欄	
				市民	シール数	地域・自治区	シール数	団体	シール数		事業者
		4-1-3	道路や橋梁などまちの基盤整備	・歩道に車がでないように、迷惑をかけないように意識する。		・旧5町間市道の整備、自治区も地権者との調整に協力する。	1			・京奈和自動車道の2車線化。	
				・道路を作るにあたって必要・不要の声を上げる。		・道路をきれいに保つ(ゴミを捨てない) ・道路を傷めない(スタッドレスタイヤにする)				・岩出根来IC⇒和歌山JCTIC無料化で利用拡大(紀の川IC⇒上之郷JCTは難しそう)	
									・高速道路の逆走対策。		
									・国道整備し観葉植物を植え、見た目が華やかな町を目指す。		
		4-1-4	公共交通網の充実	・自動車を持っていても定期的には公共交通機関を利用する。		・本当に必要な路線であるか地域で話し合う(それでも必要な場合は支援を求め、自らの行動する)。	1			・和泉山脈を南北に通る鉄道路線。	
									・コミバスの増車(行政)	2	
				・公共交通機関が利用しづらい地域に住んでいるなら、タクシーの利用や移住を考える。		・公共交通機関に新たな価値を追加する。(「電車でしゃべり場」、たま電車、アート〇〇)	1	・JR駅への直行バスの運行(貴志川駅から粉河駅)。		・コミバスをやめてタクシー運営(運転代行みたいな)。	
				・コミバスをできるだけ使う。				・和歌山電鉄、JR和歌山線と乗り入れ。	1	・貸し切り列車などの事業者と共同した利用促進。	
								・積極的に事業者がPRを行える「場」を提供する。		・府県を越えた連携で、コミュニティバスを充実させる。	
J	生活環境・自然環境	4-2-1	快適な生活環境の維持	・高齢化に伴い、休耕地が増えて雑草が生い茂っている。これの処置は地主の責任で処置すべきだが実施されていないのが現実である。近所に呼びかけてボランティアで処置できないか。		・地域の環境整備は主に自治区の加入者で実施している。しかし、自治区へ加入する人が減少しているため加入の促進が必要である。			・ボランティアの清掃活動を増やす。		・電気自動車の充電スポットを増設する。
				・台風の後などは、できるだけ早く家の周りの道路等をきれいにする。		・雑草の処理を行う。				・紀の川用水で、小水力発電のシステムを整備する。	
				・日頃から近所の輪を大切にす。	1	・道路の舗装工事をす。				・非電力、非ガソリンの場づくり。	
						・空き地が増加しているなか、そのままにしておくや草や樹木が大きくなるので早期に行政に相談する。					
		4-2-2	ごみや資源物の効率的な収集・処理	・市民一人一人でごみの分別処理ができるようにする。		・不法投棄をしない、させない。		・フリーマーケットを増やす。		・生分解性プラスチックを普及する。	
				・ごみを減らす努力をする。	1	・高齢者や障がい者などごみ出し困難者に対し、助けてあげるボランティアグループをつくる。	1			・ごみ袋が値上げされたが、旧ごみ袋も差額シールなしでも処理すべきではないか。	
				・ごみなどをポイ捨てしない。	1	・学校などに啓発看板の制作を手伝ってもらう。				ごみ集積場の集約に必要な資金は増額すべき	
				・リサイクルできるものを捨ててしまわない。		・定期的に地域の掃除の機会をもうける。					
				・ごみ拾いなどの活動を自主的・積極的に参加する。		・ごみ分別の基準を分かりやすくする。					
		4-2-3	適切な生活排水対策の推進	・合併浄化槽や公共下水道を利用する。		・下水道を普及する。	1			・浄化槽の定期点検を行う。	
		4-2-4	水道水の安定的な供給	・水道管をこまめな清掃。				・安全な水が水道から飲めることを当たり前と思わせない取り組みをする。		・水道管理をもっと充実させ、使いやすいものにする。	
				・水道料金を滞納しない。				・水道事業の財政状況を分かりやすく伝えて理解を得る。		・水道水にプラスワンで何かを加える(例えば酸素水にできるなど)	
								・水道を新たに敷設するときは、軒先まで市で対応すべきである。(電気は関西電力がしてくれる。)			
								・クレジットカード決済の導入(割引)など料金を確実に収集できる仕組みをつくる。			
		4-3-1	自然環境の保全・回復・創造とふれあい環境づくり	・自分の土地は放置せずちゃんと管理する。				・狩猟への被害防止対策を強化する。		・ジビエレストランをつくる。	1
								・ほたるサミットをもっと広める。		・森林の伐採をできる限り少なくする。	
								・狩猟体験ができるようにする。		・薪ストーブ、薪ステーションなど間伐材ビジネスを行う。	
								・そもそもどんな問題があり、どんな対策があるのかを市民に伝え協力をよびかける。		・野山や川で遊べる公園をつくる。(ジップライン、アスレチック、プレイパーク)	
K	人権尊重・地域づくり	5-1-1	人権が尊重された公平な社会の実現	・まず知り、学ぶ→伝える。	1	・障がいのある人が社会的背景により生きづらさを抱えた人たちが特別なことを受けるのではなく、当たり前のように生きていくための理解や支援をする。		・老若男女関係なく参加できる場所づくり。	1	・女性と男性が同じように働くことができる職場をつくる。	
				・自分が持っている人権をしっかり自覚する。		・意見を言いやすい環境やまちづくり		・誰もが安心して暮らせる環境、制度を整備する。(人権を守る。)		・男性に対しての育休を推進する。	
				・男女を性別ですべてを区別しないという現在がある。		・困りごとを言いやすい地域、それを支えあう地域をつくる。				・女性が働きやすい職場づくりをする。	
				・人権をうっとうしく考えがちである。		・人権意識を高めるイベントに魅力を加える。				・貧困格差のない社会や地域をつくる。	1
				・家庭の中でできる事柄はできる人がする。積極性がある。		・老人と若者の差別。(老人:コミュニティのなかでの会話、若者:感じ方など)					
				・一人一人の個性を尊重する。		・すべての人が同じ輪になる社会と絆	1				

紀の川市 市民ワークショップ(2017.09.23開催)結果まとめ

テーブル	施策	施策番号	基本施策	各ステークホルダーの役割・できること							備考欄	
				市民	シール数	地域・自治区	シール数	団体	シール数	事業者		シール数
				・外国人が困っているとき、積極的に助ける。		・差別のない地域づくり						
				・男性の強い部分、女性の得意な部分それぞれが得意分野で力を発揮できればそれで良いのではないか。人権とかあえて言う必要はないと思う。		・男女共同参画社会を広く知ってもらおう。	1					
				・人それぞれが思いやりの気持ちさえあれば問題は起きないと思う。		・お互いが認め合う。 ・尊重しあう。						
		5-2-1	地域自治・地域コミュニティの充実	・つながりを大切にする。 ・問題を共有する。		・子どもたちがよく使う公園などをもっと気持ちよくつかえるように地域の人たちで協力して掃除などをする。		・障がい者の方のサポートをする。				
				・コミュニケーションをとるために、あいさつ運動をする。	1	・地域の人が一一人つながるために参加してもらえようボランティア活動がある。		・色々な活動に参加し、話し合うワークを作る				
				・あいさつ運動をする。知っている人も知らない人もまずはあいさつをする。	2	・近所の人たちでよいので声かけをして親しくしていく。		・コミュニティ関連のイベントを増やす。				
				・不便や不利なことがないように助け合う。		・防災や防犯に備えた活動を市民に参加してもらえよう広める。		・男女同比率のPTを立ち上げて、男女参画や平等について話し合う。				
				・人とのふれあいに積極的に参加する。		・親しみがある場所で話し合いをする。		・学校事業の一部にボランティアを取り入れる。	1			
				・地域のボランティアに積極的に参加し、地域と関わりをもつ。		・年々、ボランティア活動が減少してきているのもっと地域に呼びかける。						
				・色々なボランティア活動があると思うので、まずは参加してみようと思うことが始める。								